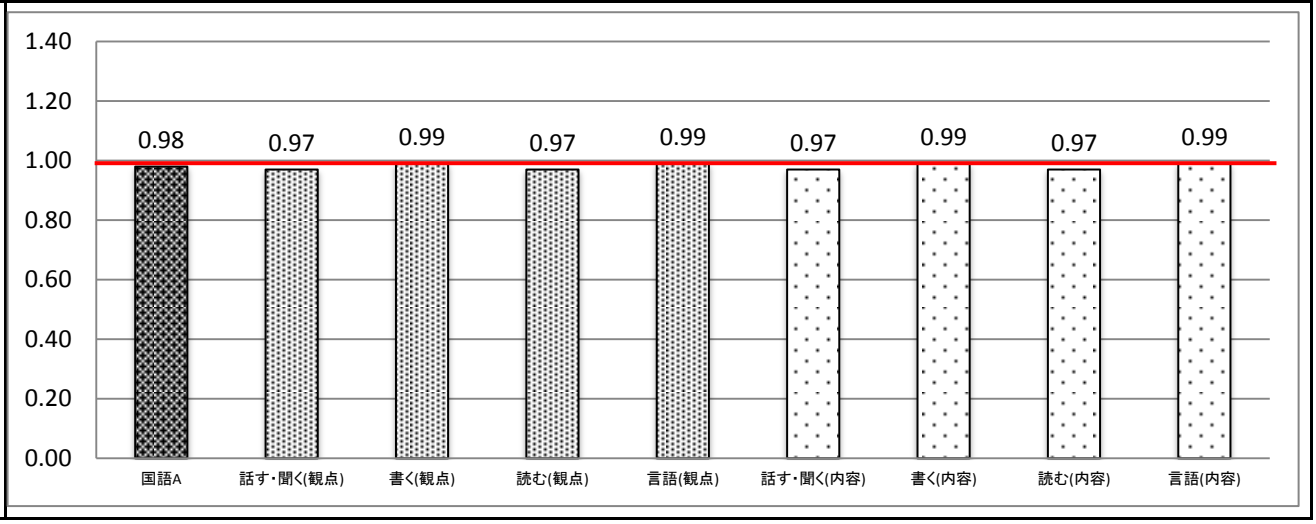
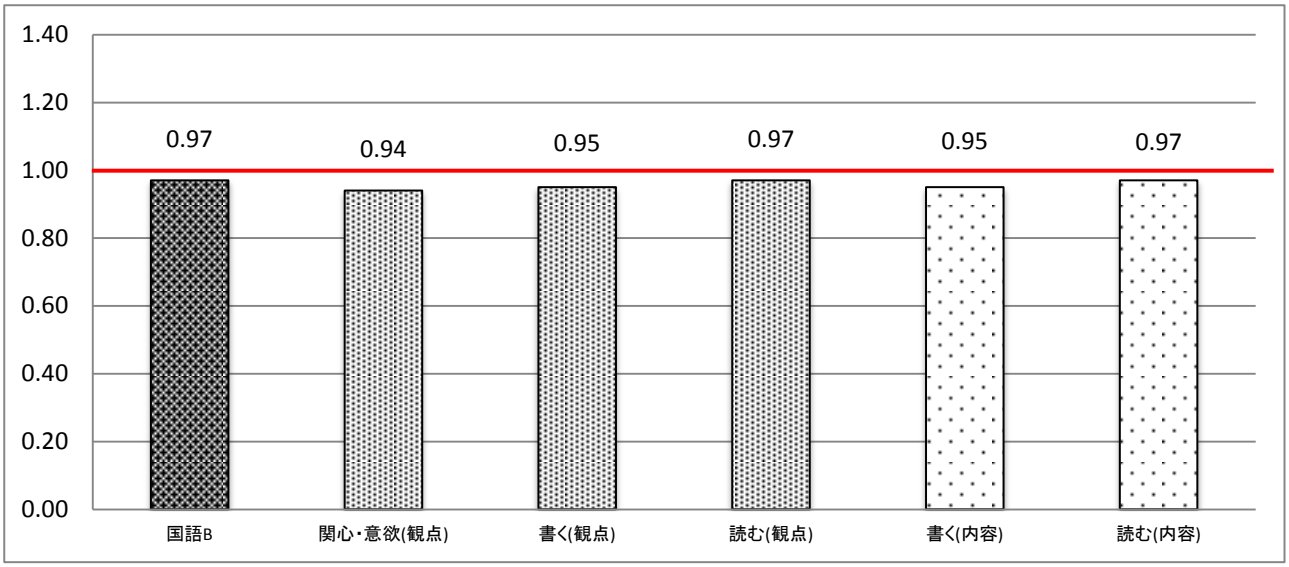
佐賀市教育委員会
平成29年9月30日

◆　平成29年度　全国学力・学習状況調査結果《中学校・国語科》　◆

■調査結果の概要

	A問題（主として「知識」に関する問題）の結果
○全体	・　全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.98で、全国平均正答率を下回っている。 （佐賀市76.2）（全国77.4）
○評価の観点	・「話す・聞く能力」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.97で、全国平均正答率を下回っている。 （佐賀市72.9）（全国75.4） ・「書く能力」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.99で、全国平均正答率を下回っている。 （佐賀市84.9）（全国85.7） ・「読む能力」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.96で、全国平均正答率を下回っている。 （佐賀市71.2）（全国73.8） ・「言語についての知識・理解・技能」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.99で、全国平均正答率を下回っている。 （佐賀市76.6）（全国77.2）
○内容・領域	・「話すこと・聞くこと」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.97で、全国平均正答率を下回っている。 （佐賀市72.9）（全国75.4） ・「書くこと」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.99で、全国平均正答率を下回っている。 （佐賀市84.9）（全国85.7） ・「読むこと」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.96で、全国平均正答率を下回っている。 （佐賀市71.2）（全国73.8） ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.99で、全国平均正答率を下回っている。 （佐賀市76.6）（全国77.2）
○グラフ	

※　国語科においては、評価の観点と内容・領域が重なる特性上、評価の観点と内容・領域は同じ数値になります。

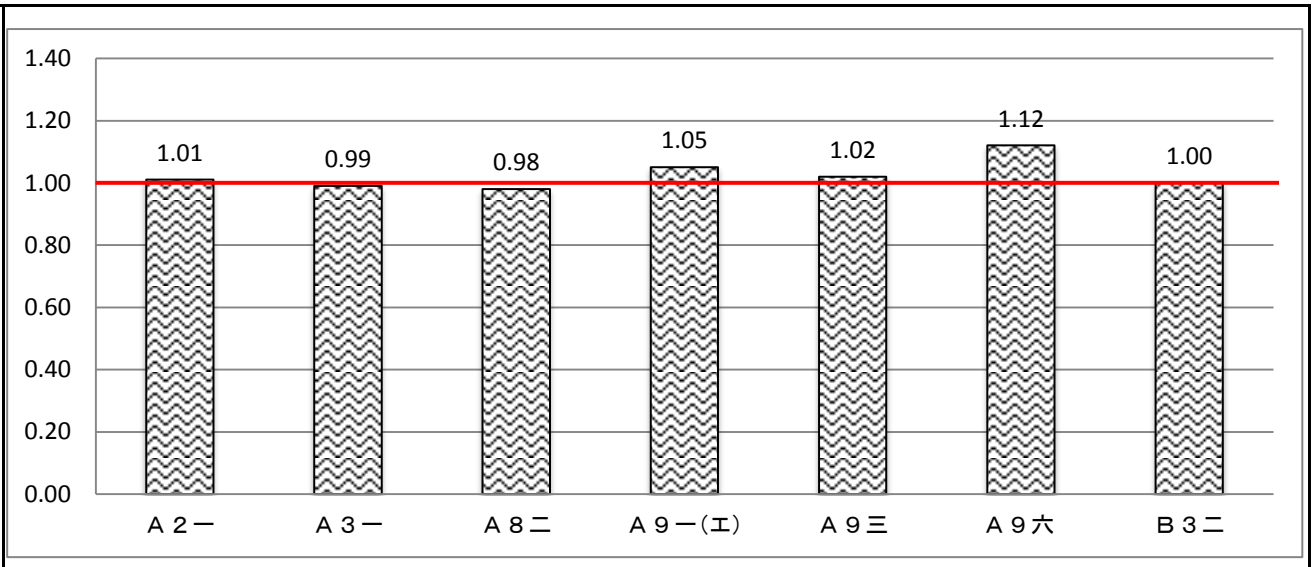
	B問題（主として「活用」に関する問題）の結果
○全体	・ 全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.97で、全国平均正答率を下回っている。 （佐賀市70.0）（全国72.2）
○評価の観点	・「国語への関心・意欲・態度」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.94で、全国平均正答率を下回っている。 （佐賀市52.8）（全国55.9） ・「書く能力」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.95で、全国平均正答率を下回っている。 （佐賀市58.0）（全国60.8） ・「読む能力」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.97で、全国平均正答率を下回っている。 （佐賀市69.7）（全国72.1） ・「話す・聞く能力」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.97で、全国平均正答率を下回っている。 （佐賀市70.2）（全国72.4） ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.88で、全国平均正答率を下回っている。 （佐賀市36.5）（全国41.4）
○内容・領域	・「書くこと」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.95で、全国平均正答率を下回っている。 （佐賀市58.0）（全国60.8） ・「読む能力」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.97で、全国平均正答率を下回っている。 （佐賀市69.7）（全国72.1） ・「話すこと・聞くこと」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.97で、全国平均正答率を下回っている。 （佐賀市70.2）（全国72.4） ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.88で、全国平均正答率を下回っている。 （佐賀市36.5）（全国41.4）
○グラフ	

※ 国語科においては、評価の観点と内容・領域が重なる特性上、評価の観点と内容・領域は同じ数値になります。

■調査結果の分析 【 成果（強み）】

問題番号	領域	観点	出題のねらい	分　　析
Ａ　２一	話す 聞く	話す 聞く	目的に応じて資料を効果的に活用して話す	資料（イラスト）の示す内容の違いを判断し、資料提示の場面を適切に選ぶことができている。発表やプレゼンテーションなどの学習活動が授業の中で取り入れられ、効果的な資料の提示の仕方が身についていると思われる。
Ａ　３一	書く	書く	書いた文章を読み返し、語句の使い方を工夫して書く	短文の推敲については、条件に合わせて語句の書き換えを適切に行うことができている。反復練習の成果が徐々に表れ、文脈に応じて適切な言語を選択できるようになっている。
Ａ　８二	読む	読む	文章に表れているものの見方や考え方について、交流を通して自分の考えを広くする	交流の場面において、書き手のものの見方や考え方に対して共通の見方をしているのか、いないのかを正確に判断することができている。交流活動が適切に行われるためには、参加者の意見を正確に理解したうえで意見を交流する必要があるので、これまでの取組を充実させて、更に伸ばしたい。
Ａ　９一	伝国	言語	文脈に即して漢字を正しく書く	漢字の読み書きについては、力が定着してきている。特に、これまで苦手としていた訓読みの漢字を書くことについて向上しており、日々の指導の徹底がうかがえる。
Ａ　９三	伝国	言語	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	場面に応じた適切な敬語を選択することができている。今後は日常生活や社会生活の中で適切に使用することができるよう、指導を徹底することが望ましい。
Ａ　９六	伝国	言語	楷書と行書との違いを理解する	楷書と比較した時の、行書の特徴について理解できている。
Ｂ　３二	読む	読む	目的に応じて必要な情報を読み取る	昨年度に引き続き、資料から必要な情報を抜き出す設問についてはよくできており、無解答率は国よりも低い。条件が明らかなもの、複数でないものについては、読み慣れてきており、資料活用の力も身につきつつある。

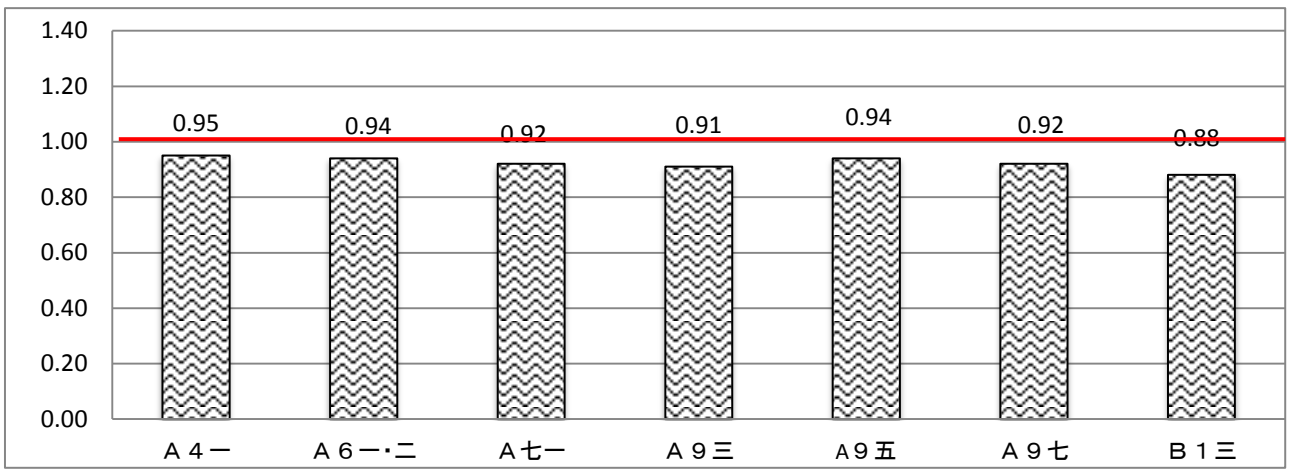
○グラフ



■調査結果の分析 【 課題（弱み）】

問題番号	領域	観点	出題のねらい	分　　析
A　4一	読む	読む	文章の要旨を捉える	文章の中心的な部分がどこか、それ以外の部分に何が書かれているのかの読み分けができていない。指導に当たっては、説明的な文章の基本的な構成についての知識を定着させ、文章の中心的な部分がどこか、それ以外の部分に何が書かれているのかを読み分ける経験を積むことが必要である。また、見出しが付けられた文章については、中心的な部分を捉えるために、見出しに着目して読むことが効果的であることを実感させる指導を徹底したい。
A　6一 6二	読む	読む	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する	文脈の中で、人物描写や心情、情景の描写が捉えられていない。そのため、何をどのようにたとえたり、表したりしているかがイメージできず、言葉の表面の意味だけを捉えてしまう傾向がある。指導に当たっては、語彙を増やし実際に使って理解することを継続して行うなどの手立てが必要である。そのうえで、人物相関図を書く学習活動や、問いの条件に合わせて必要な情報を抜き出し、整理する活動、文章中の表現から感じたことを根拠を明らかにして書く活動などを設定することが考えられる。
A　7一	話す 聞く	話す 聞く	相手に分かりやすいように語句を選択して話す	設問の意図が正確に理解できていないため、「それ以外」が小説以外の本であることが分かるように、解答できていない。指導に当たっては、目的に合わせた形態の話し合い活動を設定する必要がある。その際、相手を意識し、意図する答えを引き出すために必要なことは何かを考えさせながら行い、話し合い自体を評価することが効果的である。
A　9三	伝国	言語	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	ことわざの意味が正確に捉えられておらず、実際に使い慣れていないため、使用場面で適切なものを選べていない。ことわざや慣用句、故事成語の学習に当たっては、必ず使用場面を想定し、実際に使う学習活動を設定することが必要である。その際、他教科や学校行事との連携を図ることも効果的である。
A　9五	伝国	言語	事象や行為などを表す多様な語句について理解する	場面に応じた状況をイメージできていないため、適切な語句を選択できていない。指導に当たっては、語彙を増やすことと実際の使用場面を想定した語句の学習をすることが大切である。生活に中のさまざまな場面を題材として、知識の獲得とその知識を使って生活を豊かにする経験をつなげる手立ての工夫をする必要がある。
A　9七	伝国	伝国	古典には様々な種類の作品があることを知る	古典への興味関心を高めたうえで、知識の定着を図る必要がある。小学校からの系統性を意識して、繰り返しの指導をすることが効果的である。
B　1三	読む 書く 伝国	関・意・態 読む 書く 伝国	表現の仕方について捉え、自分の考えを書く	比喩表現についての知識や理解が十分でないため、その比喩表現が「何（誰）」の「どのような」様子を表しているのかを捉えることや、その表現について自分が感じたり考えたりしたことを、条件に応じてまとめることができていない。指導に当たっては、文章中の描写に注目して読み、その表現の仕方について自分の考えを持ったり、根拠を明らかにして意見を交流したりする学習活動を設定することが考えられる。その際、比喩や反復などの表現の技法についての知識を生かすなど、これまでの学習を踏まえるよう指導する必要がある。

○グラフ



■調査結果の分析 【指導改善について】

○　話すこと・聞くことの指導の工夫

話す・聞く力については、「事実と考えを明確に分け、構成を工夫して話すこと」「相手に分かりやすく話すこと」に課題がある。相手意識を育て、相手に分かりやすい構成で話すためには、誰にどんな場面でどのように話すのかを具体的に想定して話す経験を数多くさせることが必要である。効果的だった工夫や構成、その際の留意点を全体で共有し、次の機会に活用できるようしておかねばならない。また、話すための情報の収集とその整理に必要な力は、学校図書館との連携や、他領域、他教科との横断的な学習の中で育成するのが効果的だと思われる。

指導に当たっては、育成する目指す力に特化したコンパクトな単元を構想することが必要である。スピーチを聞いてその内容や構成について検討する学習活動を単元の一部に設定したり、他領域や他教科、学校行事や学活等の中でのスピーチや発表の際に設定したりすることが考えられる。その際に交流や評価の場面を作ったり、場の工夫をしたりすることで、実感を伴った活動にすることが大切である。

○　書くことの指導の工夫

書くことについては、全体的に向上傾向にある。書くことへの抵抗感はかなり緩和され、無解答率については低くなっている。条件に応じてある程度の長さの文章を書くことについては、自信を持ってできている。また、推敲やお互いの文章を読み合い、よさや改善点を見出す活動が以前より多く授業に取り入れられ、そのような学習活動に慣れてきたものと考えられる。佐賀市の国語部会で取り組んできた、「ステップ作文」等の意欲を喚起し書き慣れる取り組みを継続しつつ、書かせる課題の検討や書いた後のフィードバックの手立てを工夫する必要がある。

指導に当たっては、文章を読んで心に残った言葉や文、感想などを書きとめ、それをもとに意見交流を行う学習活動を設定したり、「交流作文」を他校や他学年、異校種で行い、相手を意識して表現を工夫したりする学習活動を設定することなどが考えられる。

○　読むことの指導の工夫

読む力については、正答率が全国平均を下回っている。その中でも特に、文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分けることや、構成や展開、表現の特徴について自分の考えを持つこと、描写に注意して内容を理解することに課題が見られる。全国的な傾向として、テキストを読み解くことができていないことが課題として挙げられるが、使える語彙の少なさと文章の全体像を捉えられないことに起因しているものと考えられる。家庭や地域を巻き込んだ継続的な読書指導が必要である。

指導に当たっては、詳細な読みばかりでなく、文章全体を捉える指導の必要がある。また、語彙を豊かにするために頻繁に辞書を使い、多くの言葉に触れさせていくこと、文脈の中で言葉を理解することを継続して行いながら、多くの種類の文章に触れさせることが有効である。具体的には「ステップ作文」の課題の中に、比喩表現や表現技法を使うことを条件とするものを設定したり、文章中の描写について意見交流を行う学習活動を設定したりして、自分の考えを持ち、まとめる場面を増やすことが考えられる。また、書評を書くなど、適切な言語活動を取り入れて、読む力の育成を図る必要がある。

○　クロス集計の分析と指導改善

「国語の勉強は大切だ」「国語の授業で学習したことは将来役に立つ」と考えている生徒ほど、正答率が高い。生徒の興味・関心の高い題材を取り上げたり、体験を伴う課題を取り上げたりし、学習したことを日常生活で活用させる活動を仕組むことで、実感を伴った、使える知識・技能として定着すると思われる。書くことへの抵抗感はかなり緩和され、無解答率は低くなっているが、依然として、長い文章を書くこと、自分の考えを説明することや書くことに苦手意識が強い傾向は変わっていない。佐賀市国語部会では「書くこと」の研究を行い、書くスキルを身に付け、一定量の文章を書き慣れること、書く意欲を喚起し相手意識を育成することを目的とした取組を実践してきたが、「書く力」が身に付いており、書こうという意欲のある生徒ほど正答率が高いことからも、この取組の継続と徹底が必要だろう。

佐賀市の生徒は、意欲や達成度が向上傾向にある。今後の課題としてはわかったことや学んだことと使えることがつながる手立ての工夫があげられる。他領域や他教科、学校行事と連携し、実感を伴った学習活動を設定することが求められる。また、読書が好きな生徒の割合は、継続的に高いため、地域や家庭の協力のもと、今後も学校や家庭での読書の時間の確保と積極的な読書指導を行うことが大切である。

■評価の観点については、以下のように表記しています。

評価の観点	表記
話す・聞く能力	話す・聞く
書く能力	書く
読む能力	読む
言語についての知識・理解・技能	言語

■内容・領域については、以下のように表記しています。

内容・領域	表記
話すこと・聞くこと	話す・聞く
書くこと	書く
読むこと	読む
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	言語